

目次

まえがき	3
細雪の言語生活	和田 實 7
御所ことばについて	堀井令以知 41
関西ことばの基層——ことばと文化	寿岳 章子 83
「日本言語地図」からみた上方ことば	徳川 宗賢 128
上方の地名	鏡味 明克 178
表現法の地域差	佐藤 亮一 208

ことです。それから、魚なんか死ぬことを「あがる」といいますし、鳥や獣なんか死ぬことを「おちる」というふうに置き換えていいです。「剃る」ということばは、ほかの社会でもそうですが、忌詞を使います。ここでは、「たれる」といいです。それから、いわゆる正月ことばというのがございまして、正月の三が日は、縁起の悪いことばは使ってはいいけません。たとえば、「うっかり」「ねずみ」ということばを使いますと、年中大暴れされるとしてきらいです。それではどういのですかか聞きますと、正月三が日は、「かの一」というそうです。また、むかしはよく天狗の話をしたそうですが、この天狗というのも、正月三が日は使ってはいけないそうです。その語をいうと、その年よくないというのですね。どういのかと聞きますと、「ものものさん」というそうです。ところが、うっかり「天狗」といってしまつたら、取り消す方法がございします。それは、たたりを恐れまして、天狗にたいしましては火のたたりがあるといひ伝えますので、その反対のことばをいいます。「水、水、水」と三回繰り返しますと、帳消しになるとのことばがございします。それで先ほどからお話しております『お湯殿の上の日記』などを讀みましても、そういうたぐいの清の社会のことばが、辞書には登録されておられませんけれどもよく出てまいります。それも話したかったのですが、時間が超過いたしました。本日はご清聴ありがとうございました。

関西ことばの基層——ことばと文化

寿 岳 章 子

「上方ことば」といひましても、これは弁解がましいことですが、私はもちろん専門ではございませぬ。ちよつとそういうことを書いたり、言わされたりすることはまあまりすけれども、ちよつと斜めみたいな世界ですので、そのところは上方ことばの学者が言っていると思われは困りますので、ゆるい立場だとご判断くださいませ。

上方ことばとマスコミドラマ

自分で言うのも気がひけますが、最近、私の女学校時代の日記をもとにしてテレビドラマが放映されました。もちろん私が演じたわけではございませぬ。私とは似ても似つかぬかわいのお嬢ちゃんを私を演じて下さいましたため、結果的にはサギも同然だったという人が大変多いのです。それはさておき、実は、あのドラマはいろいろな意味あいに取れます。私、一つの考えを持ちましたのは、あのドラマに限りませぬけれども、しかしあのドラマが一番極端だったと思ひますが、女学生ことばの京都弁みたいなもの、主演の歌手というか俳優さんは四條中学という京都市内の学校を出た京都育ちのお嬢さんですので、私みたいなもの小さい時と、そう変つていないと思ひますが、それを話すのにお上手に自然にいかたと思うのです。ただ、裏話を聞いてみると、まあNHKのドラマに出るのは嬉しいけれども、せっかく東京へ出て少し標準語が身に